令和元年度岐阜県統計グラフコンクール審査結果について

○主　催　　岐阜県

○後　援　　岐阜新聞社、岐阜放送、岐阜県教育委員会、岐阜県小中学校教育研究会

○目的等　　本県における統計知識の普及と統計の表現技術の研さんを目的に、統計グラフ全国コンクール推薦作品の選考を兼ねて毎年開催

○グラフの課題及び評価のポイント

統計グラフ全国コンクールに準じる

○応募作品数の推移

（単位：作品）

	第1部 (小 1･2)	第2部 (小 3･4)	第3部 (小 5･6)	第4部 (中学)	第5部 (高校･ 一般)	ﾊﾟｿｺﾝ 統計ｸﾞﾗﾌ の部	計
平成29年度	250	367	194	124	4	47	986
平成30年度	270	295	173	97	2	60	897
令和元年度	247	271	206	158	－	68	950

○入賞区分内訳

（単位：作品）

	岐阜県 知事賞	岐阜新聞社・ 岐阜放送賞	入選	佳作	奨励賞	合計
第１部	1	1	3	5	10	20
第２部	1	1	3	5	10	20
第３部	1	1	3	5	10	20
第４部	1	1	3	3	5	13
第５部	-	-	-	-	-	-
パソコン統計 グラフの部	1	1	3	3	5	13
合　計	5	5	15	21	40	86

令和元年度岐阜県統計グラフコンクール作品評

総　　評

岐阜県統計グラフコンクールは、今年度で６７回目を迎えました。その歴史は古く、審査を行いながら、本コンクールが岐阜県の伝統として深く根付いていることを、一つ一つの作品から強く感じました。

本県の作品は、全国コンクールでも毎年高い評価を得ており、その質の高さが全国からも注目されております。昨年度は、パソコン統計グラフの部で中学２年生（当時）の中西美来さんの作品「改革できる？教員の過重労働」が特選（石橋信夫賞）に選ばれました。他にも８人の方が受賞（入選１人、佳作７人）され、過去５年間では４５人の方が受賞（特選１人、入選１１人、佳作３３人）されたことになります。これもひとえに、関係者の皆様が「統計知識の普及と統計の表現技術の研鑽」を目的とした本事業の趣旨をご理解いただき、積極的に啓発・指導いただいた成果であると感謝しております。

令和元年度は、県内各地から９５０点の作品が寄せられました。題材としては、１部や２部では身近な課題をテーマに、調査したことや観察記録をまとめたり、友だちにアンケート調査をしたりして集めたデータを、絵とグラフをうまく組み合わせてまとめた作品が多く、楽しみながら一生懸命取り組んだ様子が伝わってきました。また、学年が上がるに従って、日常の疑問や学校生活に関するものから温暖化などの環境問題、オリンピックやＳＮＳ関係などの時事問題を取り上げたものまで、多様なテーマの作品がありました。適切なグラフを用いて、色や配列などを工夫して、時間をかけて丁寧に取り組んだことが伺える作品が多くありました。

作品の各部ごとの概要は次のとおりです。

＜第１部：小学１・２年生＞

低学年らしい発想で、自分や友だちの大好きなことを調査したり、「あさがお」や「やさい」、「むし」などについて、夏休みに観察したことをまとめたりした作品が多くありました。

＜第２部：小学３・４年生＞

「教えてみんなの〇〇」などのように、友だちに聞いたことをテーマにした作品が多くありました。中学年らしく、将来の夢、自主学習や習い事、読書やゲーム時間など、学校生活での話題が伝わってきました。

＜第３部：小学５・６年生＞
　高学年らしく「親子関係」や「友人関係」をテーマにした作品、「視力低下」「睡眠」などの健康のこと、「４Ｒ」「温暖化」「地震」などの環境問題や災害のことなど、興味・関心の広がりを感じさせる作品が多くありました。
＜第４部：中学生＞
　「食品ロス」や「海洋プラ汚染」、「外国人労働者」や「働き方改革」、「高齢社会」、「アンガーマネジメント」など、社会情勢に目を向けた作品が多く、中学生の関心の高さを感じるとともに、内容的にも見応えがある作品が多くありました。
＜第５部：高校生・学生・一般＞
　今年度は応募がありませんでした。
＜パソコン統計グラフの部＞
　中学生では「男女平等」や「高齢者の免許返納」などの社会問題、小学生では「ＩＣＴ」「ＡＩ」などの学習とのかかわりが深いことを、パソコン機能を活用して、データをもとに細やかなグラフを作成して、見やすく人目を引く作品に仕上げられていました。
　最後に、主張したいことが明確になり、よりよい作品にするために気を付けるとよいことについて何点か示します。これらのことに留意し、来年度もすぐれた作品が多数出品されることを期待します。

【グラフの選択・作成について】
・低学年では、学校での学習時期や発達の段階を踏まえて適切なグラフを選択し、同学年の児童が見てわかるような作品にしましょう。
・グラフを立体で表す時には、グラフの基準の位置や目盛、角度によるズレなどに気を付けて正確に表すことを大切にしましょう。
【構成・レイアウトについて】
・主張したいことがよりよく伝わるタイトルを設定しましょう。それに合わせた設問の表現や、用紙内のグラフ配置などを工夫しましょう。グラフで表すことが中心ですが、コメントや考察などをうまく工夫してわかりやすくした作品もありました。
・他の人に見てもらうことを考え、情報量、グラフの大きさ、形や色使い、配置などにも気を付けましょう。
【その他】
・コンクールは、作品が優れていても「応募作品の規格」や「応募上の注意」が守られていないと選外となりますので、確実に確認しましょう。第三者が作成した著作物の使用は法律で禁止されています。インターネット上にあるマークやイラスト、写真等をそのまま引用・転載することは法律違反となることがありますので特に注意しましょう。